

市政運営プラン：

未来を拓く、

なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり

—思いやりと寛容で、心をつないで—

2022.09.01

那覇市 前副市長 知念 覚

1.はじめに

私は、これまで長く地方自治の場に身を置き、様々な行政経験を重ねてきました。直近の約8年間は、副市長として市長を補佐し、多くの課題に誠実に向き合ってきました。

この間、胸に刻んでいたのは、思いやりと寛容の心です。常に相手の立場に想いを寄せ、その声に丁寧に耳を傾け、最善の解決策を見い出してきたと自負しています。

同時に、その歩みの中では、都市としての価値をさらに高める、那覇市の持つ大きなポテンシャルに心を躍らせていました。そして、いつの日か、その大きな可能性をしっかりと紡ぎ合わせ、未来への新しい一歩にしたいとの思いを強くしてきました。

コロナ禍で市民生活が一変し、社会経済活動も大きな制約を受けています。そのような今、市政から離れた政治姿勢で、いたずらに対立構造を招くべきではなく、それによる市政運営の無用な混乱と停滞はあってはなりません。

今こそ、心をひとつに、今後のまちづくりを展望し、市民福祉の向上や地域の発展などへの取り組みを急がなければなりません。

那覇市長選挙に臨むにあたり、これまで培ってきた経験をもとに、すべてに全力を傾け、ひとの“和”で、まちに笑顔を、ひとの“輪”で、まちに元気を、この想いを必ずや実現する決意です。

2.現状認識

(1) 行政の使命

- ①人の人生をともに歩み、各段階で目配りする良きサポーターとなること
- ②セーフティネットを広げ、絶対的な安心感を与える最後の砦となること
- ③地域のポテンシャルを捉え、持続可能な未来への成長を加速させること

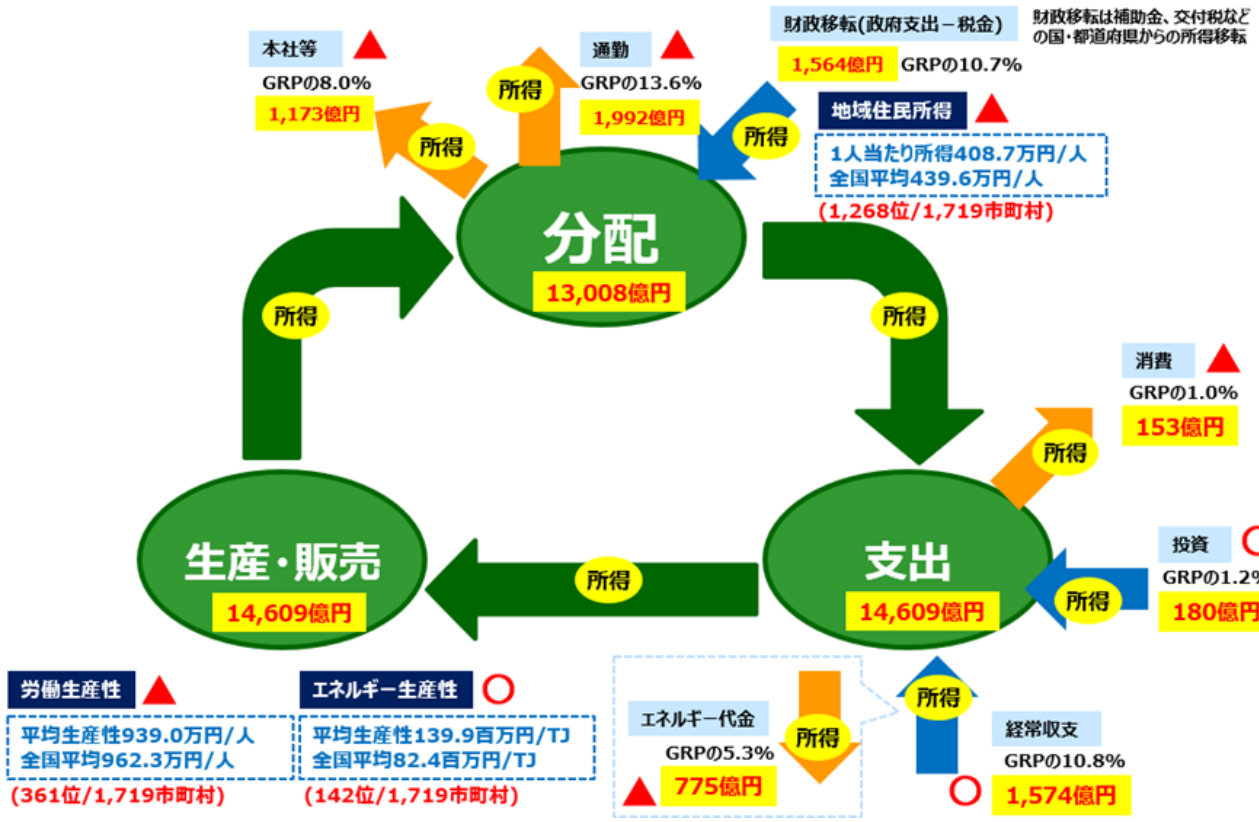
(2) 私のスキル

- ①市民ニーズを見極め、常に最善を選択し、迅速に対処する **「対応力」**
- ②小さな糸口を見極め、諦めず、ピンチをチャンスに変える **「突破力」**
- ③社会経済環境を見極め、稼ぐ力が輝く、次の一手を捉える **「構想力」**
- ④時代の潮流を見極め、追い風を捉えて、確実に前に進める **「先導力」**

**多様な経験で得た自らのスキルを最大限活かして、
喫緊の課題に迅速に対処し、行政の使命を確実に果たす**

3.現状分析

(1)経済構造



生産

市内で生み出された付加価値額は、1兆4,609億円で、これまで、堅調に増加しています。

本県のフロントランナーとして、経済を牽引する役割を担っています。

分配

生み出された付加価値額は、所得として、1兆3,008億円、分配されます。このうち雇用者所得については、これまで大きく増加してきました。

一部、市外勤務者により域外へ流出もありますが、「那覇市の稼ぎで、周囲も豊かに」との波及効果が確認できます。

支出

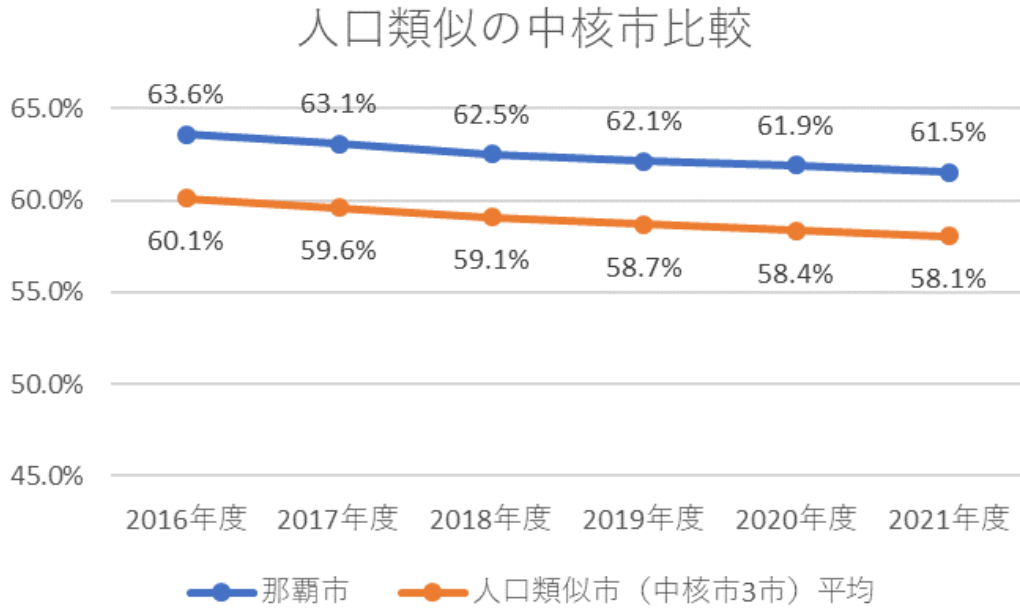
市民や企業等に分配された所得は、民間消費や投資、その他支出として、1兆4,609億円が消費されます。これまで市内消費は、拡大し続け、また企業の設備投資も活発です。

ポテンシャルを活かした魅力あるまちづくりを進めることで、さらなる消費や投資が期待されます。

3.現状分析

(2)生産年齢人口

生産年齢人口の高さは、コロナ禍からのV字回復に向け、最も必要とする要素です。



⇒那覇市と人口が類似している中核市3市と比較しても分かるとおり、本市は、生産年齢人口の割合が高くなっています。

県庁所在地比較

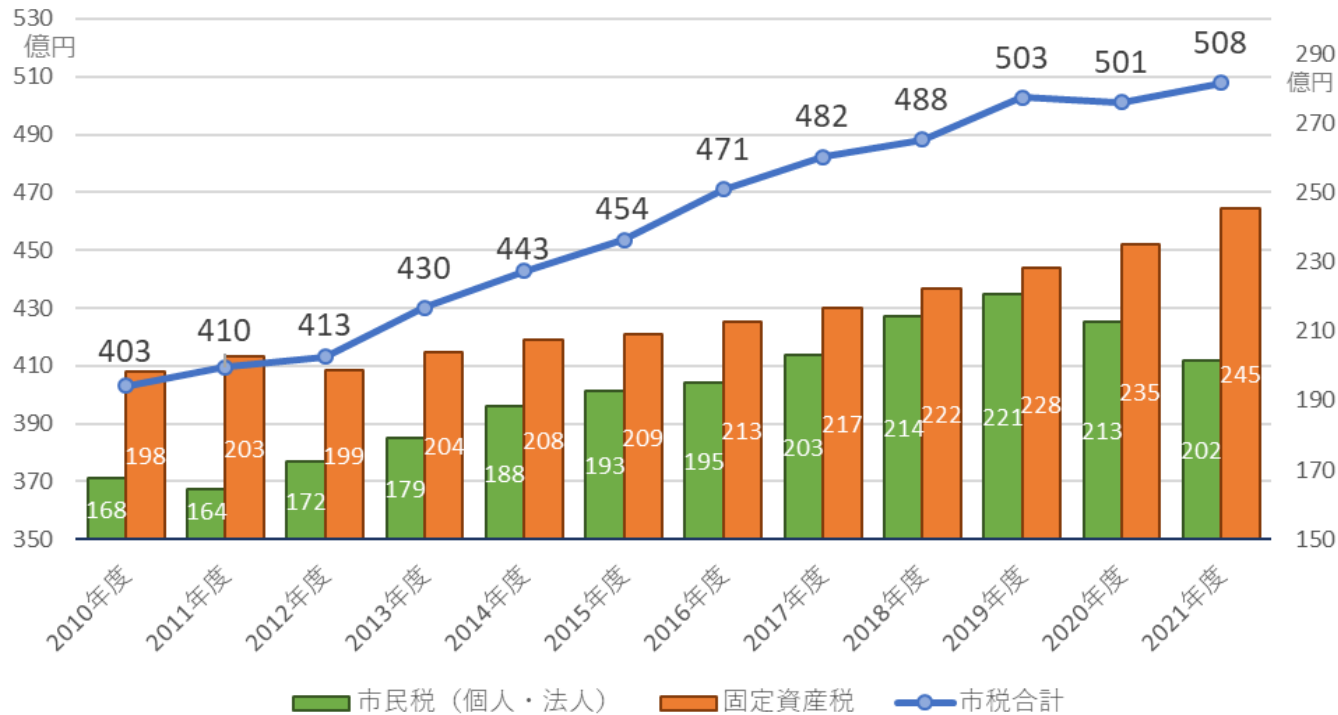
都道府県名	団体名	生産年齢人口	順位	平均年齢	順位
東京都	新宿区	70.8%	1	44.3	2
福岡県	福岡市	64.5%	2	43.9	1
宮城県	仙台市	63.6%	3	45.4	5
大阪府	大阪市	63.5%	4	46.4	11
埼玉県	さいたま市	63.4%	5	45.1	4
神奈川県	横浜市	63.0%	6	46.4	12
愛知県	名古屋市	62.3%	7	46.1	8
沖縄県	那覇市	61.5%	8	44.5	3
千葉県	千葉市	61.2%	9	46.9	17
栃木県	宇都宮市	61.2%	10	46.2	10
北海道	札幌市	61.0%	11	47.7	24
京都府	京都市	60.7%	12	47.4	21
広島県	広島市	60.6%	13	45.9	6
石川県	金沢市	60.5%	14	46.5	14
岡山県	岡山市	60.4%	15	46.0	7
茨城県	水戸市	60.2%	16	46.8	16
熊本県	熊本市	59.7%	17	46.1	9
岩手県	盛岡市	59.6%	18	47.8	25
滋賀県	大津市	59.5%	19	46.5	13
兵庫県	神戸市	58.8%	20	48.0	29

令和2年国勢調査によれば、生産年齢人口の割合は、県庁所在地の中で8番目の高さで、平均年齢は、3番目の若さです。全国的に、少子高齢化が深刻化している中、那覇市は他の大都市と肩を並べるほどのポテンシャルを秘めているといえます。

3.現状分析

(3)市税収入

市税の推移



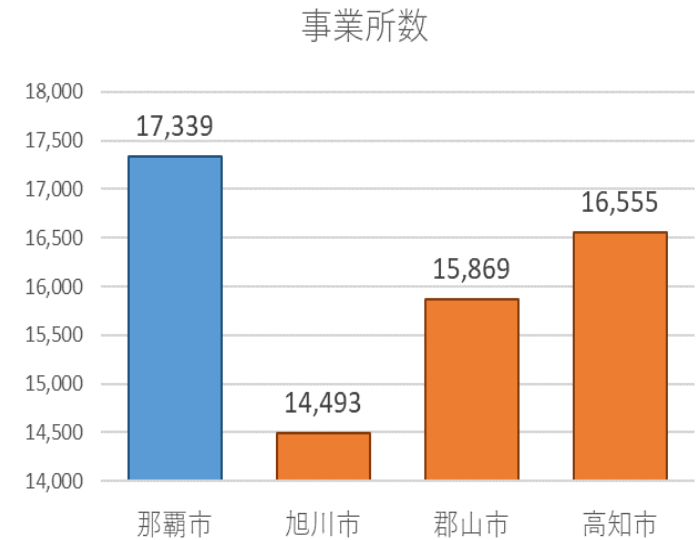
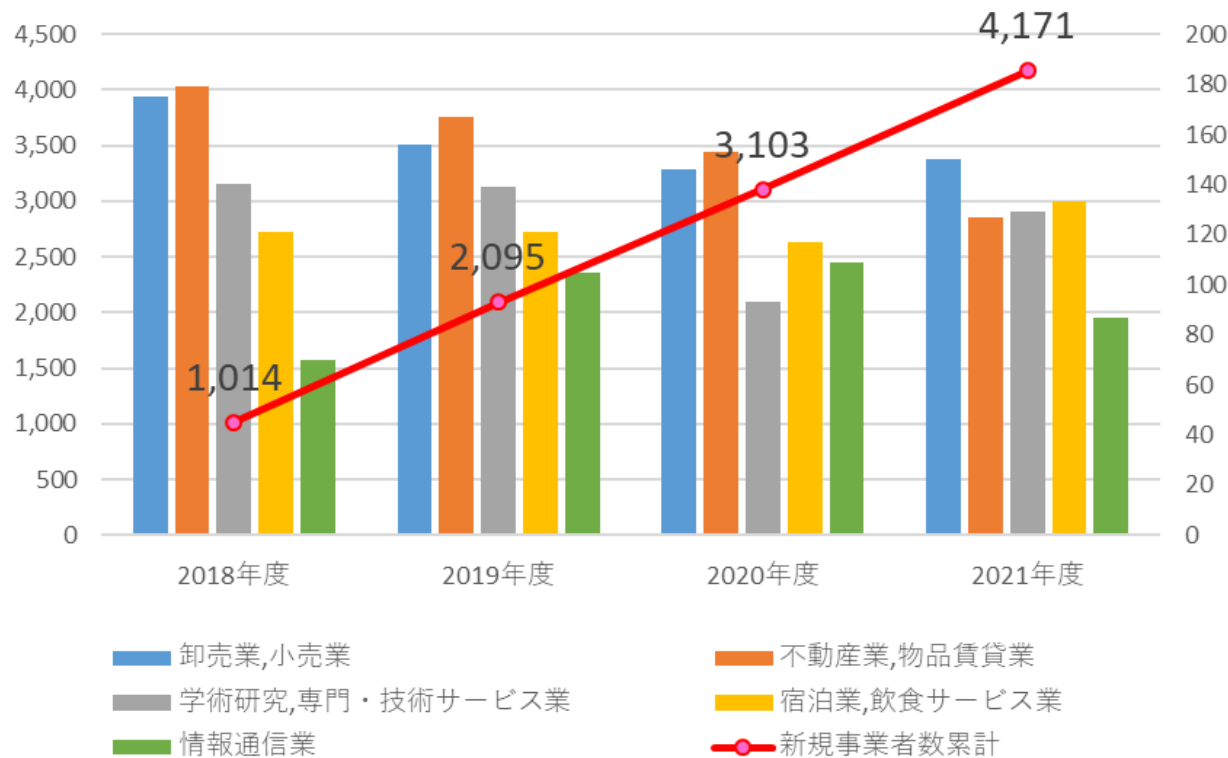
市税は、2020年度にコロナの影響を受けたものの、これまでの好調な経済状況を反映して、右肩上がりに伸びています。この10年間で、約100億円の増額となっています。

特に、不動産市場が活況で、新規の建物建設も多く、固定資産税の伸びが顕著となっています。

また、市民税は、税率改正の影響により法人市民税が減収となったものの、個人市税収入は、概ね堅調に推移しています。

3.現状分析

(4)新規事業所数



本市と人口が類似している中核市3市と比較では、事業所数の多さは顕著です。市内経済が活況な様子が伺えます。

好調な経済を背景に、近年、本市の新規事業者数の累計は、4,171件と、コロナ禍の影響をもちもせず、毎年1,000件以上ずつ増加しています。特に卸売業,小売業、不動産業,物品賃貸業、学術研究,専門・技術サービス業、宿泊業,飲食サービス業、情報通信業などでの起業意欲が旺盛となっています。本市の経済状況が好調であることの理由のひとつは、新たに起業する方が多いことにあるものと考えられます。このような方々への起業支援を、これまで以上に拡充していきたいと考えております。

3.現状分析

(5) 魅力度

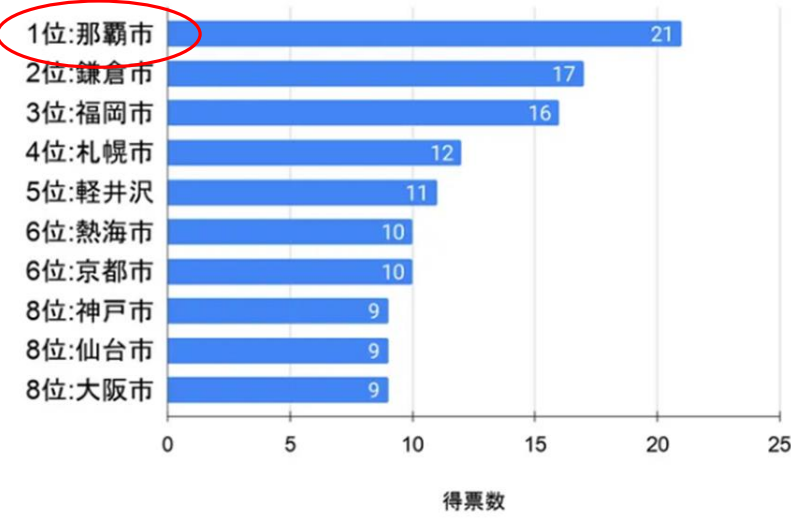
■ 住みたい街(自治体)ランキングTOP20

順位	昨年	自治体名	得票数	得票率
1位	1位	福岡県 福岡市	892	0.48%
2位	3位	沖縄県 那覇市	749	0.40%
3位	2位	神奈川県 横浜市	739	0.39%
4位	4位	宮城県 仙台市	466	0.25%
5位	5位	北海道 札幌市	345	0.18%
6位	8位	大阪府 大阪市	325	0.17%
7位	6位	兵庫県 神戸市	276	0.15%
	9位	東京都 港区		
9位	7位	京都府 京都市	257	0.14%
10位	14位	東京都 千代田区	219	0.12%
11位	10位	東京都 世田谷区	213	0.11%
12位	11位	東京都 新宿区	207	0.11%
13位	16位	東京都 渋谷区	206	0.11%
14位	15位	神奈川県 鎌倉市	192	0.10%
15位	12位	愛知県 名古屋市	186	0.10%
16位	18位	東京都 中央区	184	0.10%
17位	17位	埼玉県 さいたま市	154	0.08%
18位	13位	広島県 広島市	150	0.08%
19位	19位	石川県 金沢市	128	0.07%
20位	25位	東京都 武蔵野市	125	0.07%

詳細はP27-28

回答者数 187,302名

テレワークになったら住みたい【市区町村】TOP10



テレワークになったら住みたい【市区町村】TOP10株式会社AlbaLink

魅力度ランキング(市区町村 1位~25位)

順位	市区町村名	都道府県名	点数
1	(3) 京都市	京都府	51.9
2	(1) 函館市	北海道	51.3
2	(2) 札幌市	北海道	51.3
4	(6) 横浜市	神奈川県	48.1
5	(4) 小樽市	北海道	46.9
6	(5) 神戸市	兵庫県	44.8
7	(7) 鎌倉市	神奈川県	44.6
8	(8) 金沢市	石川県	43.8
9	(9) 富良野市	北海道	43.7
10	(10) 仙台市	宮城県	38.8
11	(12) 熱海市	静岡県	38.2
12	(13) 箱根町	神奈川県	38.0
13	(10) 日光市	栃木県	37.7
14	(16) 那覇市	沖縄県	37.0
15	(22) 伊勢市	三重県	35.6
16	(14) 石垣市	沖縄県	35.4
17	(18) 別府市	大分県	34.0
18	(19) 屋久島町	鹿児島県	33.8
19	(25) 名古屋市	愛知県	33.7
20	(15) 軽井沢町	長野県	33.3
21	(23) 伊豆市	静岡県	32.6
22	(20) 長崎市	長崎県	32.5
23	(32) 沖縄市	沖縄県	31.9
24	(21) 宮古島市	沖縄県	30.7
25	(28) 姫路市	兵庫県	30.4
25	(32) 倉敷市	岡山県	30.4

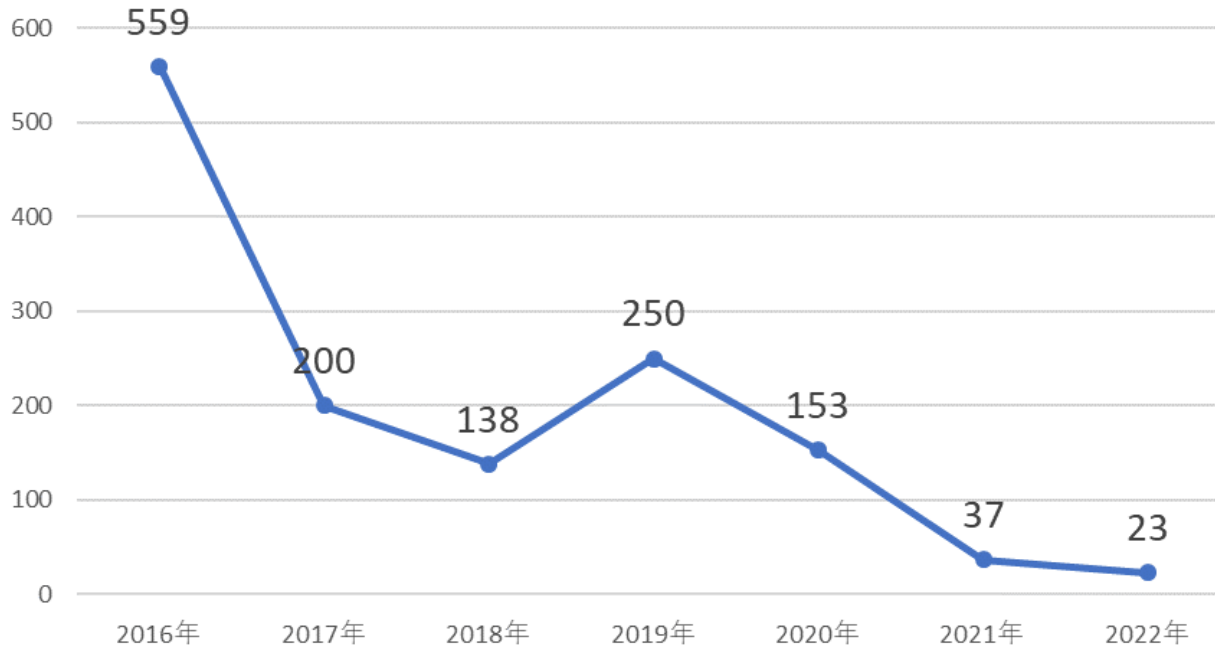
本市は、大東建託の住みたいまちランキング2021<全国版>で、2位を獲得したほか、テレワークになったら住みたい市区町村TOP10では、1位を、また、2020年の市区町村の魅力度ランキングでは、14位と、数々のランキングで上位を占めております。

温暖な気候のほか、交通の便利さ、街並み、生活関連施設の集積など様々な観点が、全国からの厚い支持をあつめているものと考えられます。
これからも、様々な施策を講じることで、本市の魅力を高めてまいりたいと考えております。

3.現状分析

(6)待機児童数

待機児童



待機児童数は、2016年4月1日時点では、559人であったのが、2022年には、23人まで大きく減少しています。

学童クラブの増設、保育士確保など、こども政策については、副市長としても精力的に取り組んできたと自負しています。特に、喫緊の課題であった、待機児童数が、ほぼ解消したことは、大きな成果といえます。

多くの企業が集中している本市において、身近で子育て環境が整っていることは、重要なことであると認識しています。

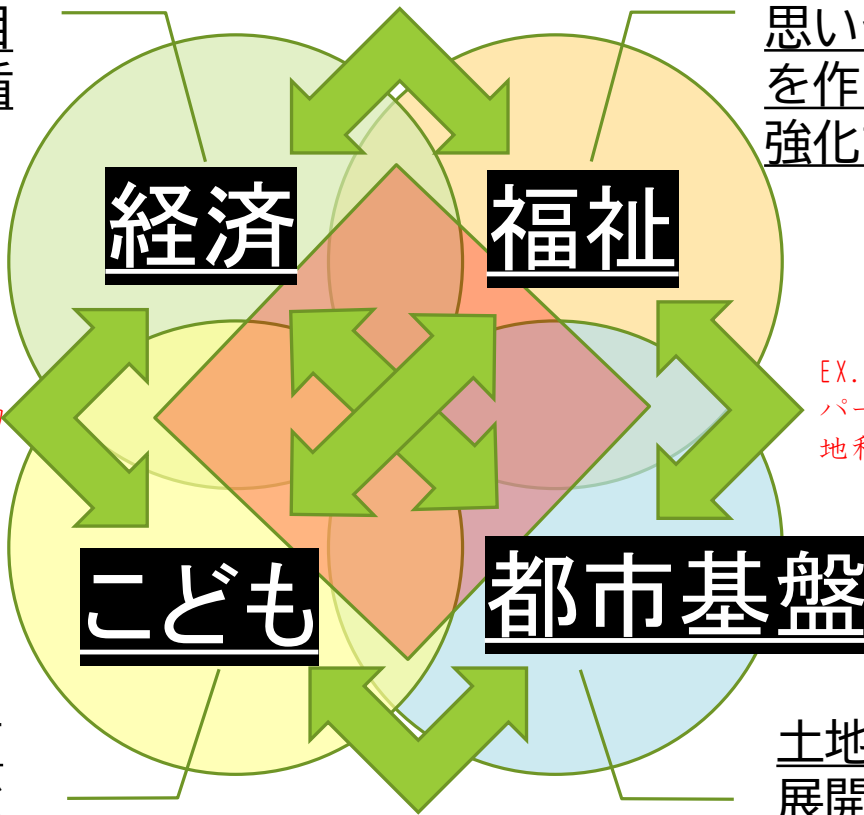
これからも、子育て環境を充実させ、働くのも那覇市、暮らすのも那覇市と、多くの方に選ばれ、愛着をもってもらえるようなまちづくりを進めてまいります。

4. 包括的取組分野

EX. 幅広い福祉ニーズに対応するため、
税収など市の財政基盤を強化につながる経済
活性化が必要

コロナ禍からのV字回復を
目指し、優位性を捉えて経済循
環を向上させる

思いやりの心が広がる仕組み
を作り、セーフティネットを
強化する



EX. こどもの貧困は、親の貧困との相関が
高いため、雇用創出等を通じた親の経済的
な基盤の確立が必要

EX. バリアフリーのほか、病院やスー
パー等の生活基盤施設の立地に資する土
地利用誘導政策が必要

こどもの健全な成長と人材育
成を主眼に、子育て環境を強
化する

土地利用が促進される施策を
展開し、エリアの付加価値を
向上させる

EX. 学校などの地域拠点を核としたこども
の安全安心を確保しつつ、健全育成に資す
る施設整備が必要

各項目を重なり合わせ、相乗的な効果を目指したアプローチ

5.短期重点推進事項 —7つの希望—

(1)コロナ禍・物価高騰への緊急対策を講じます

物価高騰が家計を直撃している現状を踏まえ、迅速かつ広範囲に及ぶ支援策を講じるとともに、各種イベントの開催や那覇の魅力発信、地元事業者への支援などにより、人流・物流の動きを止めない仕組みをつくります。

(2)こどもの健やかな成長を育む土台づくりに取り組みます

私たちの宝である子どもの健やかな成長のため、妊娠・出産、保育、就学、進学等の各段階できめ細かな支援に取り組むとともに、その土台となる『こどもの権利条例』を制定します。

(3)市民の力を点から線に、線から面に、市民協働を深化させます

様々な地域で、多様な主体により活動している点（団体）を、線（結ぶ）にし、更に面（全地域に巡らせる）にするため、小学校区まちづくり協議会を軸とした地域力の更なる向上を図りながら、協働の輪を広げます。

(4)自治体DXを加速するとともに、全市的なDX推進に向け取り組みます

行政サービスのデジタル化、オンライン化を加速させ、市民の利便性向上を図るとともに、市内の中小企業等のDX化を側面支援し、新しい時代に向けた経営環境の強靱化を促進します。

(5)公園の可能性を最大限に引き出すパークPFIの推進を図ります

市民の財産である公園の魅力を最大限に発揮するため、パークPFIの推進を図り、キャンプ場やキッチンカー、ドックランといった市民がワクワクする憩いの場を提供します。

(6)都市型MICEの誘致促進により稼ぐ力の向上を図ります

アフターコロナ、ウイズコロナ時代に向け、充実した都市機能が集積する強みを最大限活かしながらMICE誘致に取り組み、観光事業者のみならず来街者の増加による他産業への波及効果を拡大し、全体の稼ぐ力の向上を図ります。

(7)道路の雑草管理を徹底し、快適な道路空間の提供を行います

道路を覆う樹木や繁茂する雑草が、市民生活の妨げや観光客の不快な印象とならないよう、地域住民や企業などの協力体制を構築しつつ、雑草管理にかかる施策を拡充することで、快適な道路空間を提供します。

6.中長期重点推進事項 —5つの種まき—

(1)那覇軍港の早期移設を推進し、跡地利用計画を策定します

ポテンシャルの高い那覇軍港の早期移設に向け、関係団体間の協議を加速化させるとともに、「県都那覇市の振興に関する協議会」なども活用しつつ、地権者と足並みを合わせ、国・県と連携した跡地利用計画を策定します。

(2) LRT導入に向けた検討を進めるなど都市交通網の充実を図ります

環境、福祉、観光などにも大きく寄与するLRT導入の具体的な検討を進めるほか、バスやモノレール等の公共交通との結節を図るなど、ひとの移動に優しい都市交通網を充実させ、車に頼りすぎないまちづくりをすすめます。

(3)地域包括ケアシステムの構築による支えあいの仕組みを作ります。

地域内の医療機関や福祉施設等の各種資源を有機的に連携させた支えあいの仕組みを作り、高齢者が安心して住める環境を整えるとともに、地域で暮らす全ての市民の安全・安心な生活が広がるまちづくりを進めます。

(4)密集市街地の再整備を進め、安全で利便性の高いまちづくりを進めます

緊急車両等の通行への支障もある住宅密集市街地の再整備を進め、防災上の課題を解決するとともに、低利用地等の有効活用を促し、地域の利便性を向上させながら、居住環境が充実するまちづくりを進めます。

(5)脱炭素社会実現へ向けた取り組みを着実に進めます

持続可能なまちづくりの実現のため、再生可能エネルギーへの転換を促進するほか、ゼロカーボンシティを宣言し、庁舎のLED化や電気自動車の導入など、脱炭素社会実現のための実効性ある施策を展開します。

7.個別推進事項

(1)こどもへの思い

- こどもが自らを肯定し主体となる「こどもの権利条例」を制定します。
- こども医療費無償化を継続するとともに、県と連携して、子育て費用の軽減を図ります。
- 不妊特定治療の保険対象外部分や不育症検査費用の助成や相談などへの支援を行います。
- 妊婦健康診査事業と産婦健康診査事業を実施し、産前・産後の健康と安心を支えます。
- 乳幼児の発育を確認する健康診査を行い、同時に発達段階に応じた支援事業を展開します。
- フッ化物洗口の新たな手法を導入し全小中学校への普及に取り組みます。
- 保育士の確保に資する施策を進めるとともに、保育事業の質を向上に広く取り組みます。
- こどもに関する総合的な相談に対応する「こども家庭センター」の設置に取り組みます。
- 幅広いネットワークの構築により、ヤングケアラー問題に向き合い支援策を講じます。
- 学習環境を保障する「学びクーポン事業」の対象を中学3年生まで拡充します。
- 学びクーポンと連携した「子育てママクーポン」を実施し、子育て環境を整えます。
- 小中学校の給食費無料化について、沖縄県と連携して実施します。
- 保護者負担となっている学級費を公費負担とするなどの負担軽減に取り組みます。
- 県外大会派遣に伴う費用助成を拡充し、児童生徒の活躍の場を広げます。
- 「こども食堂」や「こどもの居場所」などの支援を強化し、継続的な展開を支援します。
- コロナ禍での児童・生徒のストレスを軽減し、健やかな学びの機会を提供します。
- 生理の貧困問題に対処し、安心して学校生活を送れるよう学校に生理用品を備えます。
- こども達が、伸び伸びと楽しく遊ぶことできる遊具を設置するなど公園整備をすすめます。
- GIGAスクールの確実な運用など教育ICT化により、こどもの学びの環境の高めます。

7.個別推進事項

(2)働く人・企業への思い

- 多くの来訪者が滞在し会議や研修・イベントや交流会などが開催できる「都市型MICE」を誘致するための新たな仕組みを構築します。
- コロナ禍における企業経営の立て直しに向けて、ICTの活用やD X推進など経営環境の整備に取り組みます。
- 行政サービスのオンライン化を進めるほか、市域全体のD X化に資する施策を検討します。
- スキルアップのための研修や資格取得を支援するなど、所得向上に資する施策を展開します。
- 就業を支援する創業・就職サポートを継続的かつ効果的に実施してまいります。
- 公設市場の開設やアーケード再整備など新たに生まれ変わる「まちぐあー」を支援します。
- 早朝夜間の観光コンテンツを創出しも市内滞在時間延長と観光消費額増加を目指します。
- ワークライフバランスなど労働環境と適正な労働条件を整える公契約の施策を実施します。
- 市魚マグロの水揚げ拠点である泊魚市場の再整備を推進します。
- 本市の地理的優位性を活かした県外・海外への販路開拓を推進するための施策を拡充します。
- 県外へのトップセールスや市内事業者団体等との連携などにより市内経済活性化を図ります。
- 中心商店街での騒音や迷惑行為解消に向けて、関係機関と連携し、幅広く取り組みます。
- 後継者育成に取り組む関係機関と連携し事業承継に係る支援を強化します。
- 公共事業の地元企業・分離分割発注方針のもと、地元中小企業の育成を図ります。
- 伝統工芸館とぶんかテンプス館の一体的活用により、新たな拠点で賑わいを創出します。
- ワーケーション企業の誘致など、新たなニーズに対応した経済施策を展開します。
- 部活動指導員制度の拡充や校務のデジタル化を進め、教職員の働き方改革を推進します。

7.個別推進事項

(3)高齢者や障がい者福祉への思い

- 新真和志複合施設に障がい者福祉の拠点となる施設を設置し、機能の充実を図ります。
- 障がいのある方が、地域で安心して生活を送ることができるよう、日常生活支援などの障がい福祉サービスを実施するとともに、自立・社会参加の促進を図ります。
- 高齢者の心身機能の低下(フレイル)などの予防のための保健指導の充実を図ります。
- 最先端のIT技術を活用した高齢者等見守りの仕組みを検討します。
- 福祉バス運行や「がんじゅう1日乗車券」を継続し高齢者の生きがいづくりを支援します。
- 災害時において避難行動要支援者の避難を迅速に行えるよう、福祉避難所の拡充や関連機関との連携強化と、個別避難計画書など要支援者の情報を共有できる仕組みを検討します。
- 地域で悩みを抱える方が孤立しないよう、「地域見守り隊」の結成促進及び充実を図り、誰もが安心して生活できる地域づくりに取り組みます。
- 民生委員児童委員の圏域の明確化や地区の再編を行い、活動課題の解消に取り組みます。
- 住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう住まい、医療、介護、予防、生活支援が包括的に確保される地域包括支援センター機能の充実を図ります。
- インクルーシブ公園へのリノベーションを通して、障がいの有無に関わらず、すべての方が楽しめる、憩いの場をつくります。
- 社協のフードバンクの運営を支援するとともに支えあいの仕組みづくりをすすめます。
- 行政機関での障がい者雇用率を高めるとともに、民間事業者へも雇用拡大を働きかけます。

7.個別推進事項

(4)暮らし・地域への思い

- 都市計画道路の整備や密集市街地の改善を進め、防災対応と土地の高度利用を図ります。
- 先進技術を活用した、地域機能やサービスの効率化・高度化による地域課題の解決と利便性を含めた新たな価値を創出する、スマートシティのまちづくりに取り組みます。
- LRT導入に向けた整備計画素案を作成し、関係者との協議に必要な環境を整えます。
- 公共施設への拠点駐輪場の整備を図り、事業者のシェアサイクル事業の展開を支援します。
- 海辺の特徴を活かした賑わいのあるウォーターフロント空間の創出や都市型リゾートとして魅力ある景観形成に取り組みます。
- 新たなコミュニティ拠点とともに共生社会の拠点施設として、新真和志支所や図書館・公民館、福祉関連施設などを含む複合施設建設を着実に進めます。
- PPPやパークPFI制度等を活用し、市街地の緑化促進やまちの魅力向上を図ります。
- 保安灯・防犯カメラ設置の支援や交通安全運動に取り組み、安全安心な生活環境の提供に努めます。
- 自主防災組織を支援し、防災意識の向上と災害に強い安全安心なまちづくりを進めます。
- 自治会長会連合会などの団体等と連携し、地域の自主的な取り組みを更に活性化するための支援を行います。
- 小学校区まちづくり協議会を市内全校区に広げ、協働によるまちづくりをさらに進めます。
- 救急要請への適切な対応を図るため小緑南出張所への救急隊の増設を図ります。
- 新たな補助制度の創設など、崖ぐすれ等が懸念される急傾斜地の安全対策を図ります。

7.個別推進事項

(5)自然・環境への思い

- ゼロカーボンシティを宣言し、みどり豊かな環境を未来へ繋げる施策を展開します。
- 小中学校などの公共施設への太陽光パネル設置について検討を進めます。
- ごみの再資源化に向け、焼却廃灰をコンクリート材料としての再利用に取り組みます。
- 美しい花々やみどりの木々の中で、人々が楽しく過ごせるよう、パークPFIを導入した公園の活用を図ります。
- COOL CHOICE(賢い選択)の普及啓発に取り組みます。
- 基幹的設備改造工事による電力供給量の増加など、新たな電力の供給、効率的な発電の可能性について検討を行います。
- エコチューニングや照明LED化など、CO₂削減による環境にやさしい庁舎への取り組みを加速します。
- おいしい食べきり協力店制度など、食品ロス削減対策を推進します。
- 猫の不妊手術への助成や、犬猫の飼い主への返還、愛護者への譲渡など犬猫殺処分の廃止に取り組みます。
- 資源化物拠点回収を推進します。
- 公用車に電気自動車を導入し、業務時間外に、市民が活用することのできるカーシェアリングの実証実験を行います。
- 施策の全てで、SDGsを意識し、持続可能なまちづくりに取り組みます。

7.個別推進事項

(6)平和・文化・安全への思い

- 沖縄戦の犠牲者の御霊を慰霊する「那覇市戦没者追悼式（なぐやけの碑慰霊祭）」を実施するとともに、悲惨な戦争の実態（記録・記憶）を後世へ継承する取り組みを進めます。
- 戦後80周年に向け、不戦への決意と平和の想いを広く発信する取り組みを進めます。
- ピースフォーラムへの中学生派遣や対馬丸記念館の活用などを通して平和学習を進めます。
- 軍港の返還について「那覇港湾施設の移設に関する協議会」における協議を促進し早期移設に向けて取り組みます。
- 国際的な平和維持機関である国連機関の県内誘致に向け、沖縄県などと連携して進めます。
- 姉妹・友好都市である、ホノルル市、サンビセンテ市及び福州市との国際交流や日南市及び川崎市との相互訪問によりさらなる文化交流を推進します。
- 日本非核宣言自治体協議会と連携し、核兵器廃絶を訴えていきます。
- 琉球王国の迎賓館であり、琉球文化を発信する芸能の殿堂である「御茶屋御殿」の首里城と一体となった復元にむけて国・県など関係機関と連携した取り組みを進めます。
- 崇元寺跡地の適切な保存と観光振興拠点としての整備を進めるとともに、国史跡指定へ向けた取り組みを行います。
- 文化芸術の創造・発信、鑑賞・普及、担い手の育成などの推進策として、「なは一と」を積極的に活用した事業を展開します。
- 実践的な総合防災訓練に加え、関係機関と連携した国民保護の取り組みを強化します。

8. 未来への約束

—第5次那覇市総合計画の先に見据えるもの—

短期、中長期的な重点推進事項へ着実に向き合い、個別推進事項の実現に全力を尽くします。

市制施行100周年を経て、那覇市は、次のステージに向けた新たな一步を踏み出しました。私たちは、今を生きる責任世代として、未来を生きる次の世代のために、持続可能な那覇市の礎を創り上げなければならないと考えています。

第5次那覇市総合計画では、未来への視点として「**つながる力**」を広げる視点、「**稼ぐ力**」を高める視点、「**ひきつける力**」が**輝く視点**、を据えています。輝く未来を展望すると、やはり、この3つの視点がとても重要になります。

市政運営の過程では、それぞれの力を発揮させ、相互に作用しあい、好循環を生み出していくことを強く意識します。この結果、那覇市の底力が高まり、都市としてのブランドにさらに磨きがかかるものと確信しています。

このまちに、暮らし、働き、集う、全ての人々の期待感と高揚感にあふれるまちづくりを進め、堂々と揺るぎのない、風格と品格が漂う、輝く那覇市の未来をしっかりと拓きます。

輝く未来を拓く!!



9.おわりに

これまで副市長として日常的な課題に向き合うだけではなく、時に、中央での厳しい政治折衝にも臨んできました。真摯なやり取りを重ね、端緒を見出し、確実に突破口を開いてきたものと自負しています。

これらの実績は、シームレスに市政運営を継承するとともに、困難な時代の舵取り役としての即戦力になると確信しています。

また、副市長として自覚してきたのは、常に胸襟を開き、職員と率直な対話を重ねることでした。これにより築かれた職員との信頼関係は、私の大きな財産となっています。市民サービスの最前線に立つのは、個々の職員です。それぞれの力量を十分、発揮させながら、市民福祉の向上に向け、市役所の「総合力」を確実に展開していきます。

さて「協働によるまちづくり」は、高く掲げてきた那覇市のまちづくりの旗印です。これからも、その旗のもとに、まちづくりの思いをひとつにしなければなりません。決して平坦ではない、これからの市政の道のりにあっては、なおさら、互いの違いを認め、その違いを乗り越えながら、目標に向け、手をたずさえなければなりません。

このことこそが、私が仕えてきた市長が、真に目指したものであり、絶対に引き継がなければならない大切なものだ確信しています。

誰もが、思いやりと寛容の心を持つ社会で、多くの力をひとつにまとめながら、市民の笑顔が輝く“ミックス・なは”を創り上げ、未来への力強い新たな一歩を踏み出します。